

藤澤鋼板

レベラー ライン シャー 全面更新

ハイテン対応を盤石化

有力コイルセンターの藤澤鋼板（本社）千葉県浦安市鉄鋼通り、藤澤鐵雄社長は「このほど、レベラーラインを改造し、鋼板を切断するシャー設備を全面更新した。（投資金額は約1億円）先週20日から本稼働している。需要家の高強度・軽量化ニーズに伴う、ハイテン（高張力鋼板）加工の増加に対応したもので、シャー部分の剛性を強化し、駆動部分も一新。板厚6.0×5幅の60kg（引張強度590MPa）鋼でもラインスピードを落とさず、設備に負担をかけずに安定して加工できる体制を構築した。



藤澤社長

今回のシャー更新は以前からの懸案事項だった。同ラインは2012年に同業の村山鋼材との協業の一環で、老朽化していた自社のレベラー2基を撤去

し、村山鋼材が保有していたレベラー3基のうち、1基を購入して設置。14年に「フアイナルレベラー」を更新し、平坦度矯正能力を増強したことで、ハイ

テン対応は拡充されたが、シャー部分の剛性がハイテン仕様ではないため、切断加工時に設備自体にかかる負荷が高く、消耗を早める可能性があった。

改造工事では基礎から手を入れ、土台部分には床面との密着を強固にするクラウト材を注入。シャー設備の主要構造部材には溶接や締結部のない1枚の厚板を用いることで、板厚も以前より大きくし、大幅に剛性を高めた。

切断面のバリがより一層抑えられ、切断時の音も小さくなるなどの効果が上がっている

改造工事では基礎から手を入れ、土台部分には床面との密着を強固にするクラウト材を注入。シャー設備の主要構造部材には溶接や締結部のない1枚の厚板を用いることで、板厚も以前より大きくし、大幅に剛性を高めた。



剛性を高め、駆動部も一新したシャー設備（中央）

ほか、ラインスピードを落とし加工していた大幅で板厚の大きいハイテンについては、生産性を従来比20%上げられる見込みだ。

藤澤社長は「今まではこのまま無理をさせていたら、いつか故障してしまうのではという不安もあった。安全・安心な体制が整い、お客様への供給責任を果たせるようになったことが一番大きい」と話す。自動車向けを中心にハイテンの使用比率は今後も拡大する見

通して、同様の悩みを多く抱えるコイルセンターは多い。中長期を見据えた事業基盤の確立は各社共通の課題となっている。

2016年10月27日(木)
産業新聞 2面に掲載